

太子高校の飛翔 その9

太子高校の「今」

本年度は、太子高校の「飛翔の年」と位置づけて、「翔る」を合い言葉に教育活動を展開します。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校が飛翔する様子を知っていただければと考えています。

8月5日（金）に、アクティブ・ラーニング推進部主催の職員研修会が開かれました。テーマは「アクティブ・ラーニングの授業実践は生徒に意識変化をもたらしたか」。データは、夏休み直前の授業でアンケートを実施し、延べ1352人の生徒が回答した結果を用いました。対象教科数は6教科、合計48クラスです。（選択授業もたくさんありますので、1クラスの平均人数は約28人です。）

紙面の関係でおおざっぱにまとめますが、「授業中に学習内容に関して他の生徒と対話することが学習内容の理解につながっている」75.2%。「授業中に学習内容に関して他の生徒と対話することによって新しい友人ができた。あるいは友人との仲が深まった」72.2%。つまり、アクティブ・ラーニングの授業実践により「安心して学習できる教室環境」ができていくことがわかります。それは、「授業のクラス全体が学習に対して前向きに取り組んでいる」78.8%という数字が裏付けています。現代の学校における大きな課題の一つである「仲間作り・安心安全な学習環境」が太子高校ではできていることがわかります。アクティブ・ラーニングの推進は、人間関係づくりに大いに役立つと言われていますが、まったくその通りの結果が出ています。

一方、「新しく習ったことをこれまでに習ったことと関連づけて理解しようとしている」56.3%という結果も表れています。これは、ちょっと示唆を受ければ、既習内容が今日の学習内容と関連していることに気づける生徒が多くいるという事実を現しています。それは「あまりあてはまらない」と回答した生徒が36.3%であり、「少しあてはまる」と回答した生徒が40.6%であることから伺えます。この2つに回答したのは、ぼんやりとした自覚があるけれど、確信にまではいたっていないという生徒達ですね。ここに、太子高校における教師の働きかけのポイントがあります。授業の中のどのタイミングでどのような言葉をかけるか。教師であれば、誰でもが考えていることですが、さらに意図的・計画的に行う（授業スキルですね）と、自分の学習の幅を広げられる生徒がたくさんいることが、このアンケート結果から見えてきます。太子高校生は、アクティブ・ラーニングにより、ますます育っていきます。

ONE SHOT



とっても小さいのですが、グラウンドの端に草を刈ってくださっている校務員さんの姿が写っています。わかるでしょうか。毎日、学校の環境を整えてくださっています。今年の夏は、暑いなんてものではありませんでしたが、それでも生徒のためにと。秋の風が感じられるようになったとはいえ、今日の気温も30度を超えています。湿度は70%以上です。体育大会においでになった時には、雑草がきれいに刈り取られている事にも目を留めて頂ければと思います。

学校の力・イ・ダ・ン

インターンシップが、今年も無事終了しました。受け入れてくださった事業所の皆様、本当にありがとうございました。その中の一カ所の所長様から、「太子高校の生徒さんは、よく頑張ってくれました。是非、希望する職に就けるよう私たちも応援しています。」というお電話を頂き、却って恐縮しました。こんな思いやりのある上司の方は、きっと実習中も暖かい中にも厳しさを持って指導して下さったに違いないと思います。これこそがインターンシップの成果ですね。一夏で成長した生徒のお話です。